

富士塚 . . .



江古田富士 (小竹町1-59)



下練馬富士 (北町2-41-2)



中里富士 (大泉町1-19)





氷川神社富士 （北町8-22-1）



丸山講富士塚 （春日町3-19-19）

「もののけ姫」の例を出すまでもなく、古来より日本人は山神を崇拝する風習がありました。それぞれの村には小高い丘の上に鎮守の森があり、生活を守護する神の鎮まる処でした。まして富士山ともなれば霊峰として信仰の対象となるのは必然でしょう。

案外知られていませんが、竹取物語はかぐや姫が月に去って終わりではありません。富士山をめぐる逸話で閉じています。

かぐや姫は形見に、不死の薬・天の羽衣・帝への手紙の3つを残します。しかし、帝は「姫に二度と会えないのに不死の薬など何の役にも立たない」と、それを駿河国の日本で一番高い山で焼くように命じたのでした。それからその山は「不死山」と名づけられたというのです。

さて、富士信仰の歴史について詳細は省くとして、享保18年（吉宗の治世）、食行身祿（じきぎょうみろく）が時世の腐敗を痛憤し、世直しを祈念して富士山鳥帽子岩に入定します。これがきっかけとなって江戸の町に富士講の大ブームが巻き起こることになり



ます。当時の町人の信仰ぶりの一端は、長屋中の女房達を丸坊主にしてしまうというとてもない落語「大山詣り」でも伺えますね。

また、弟子の高田豊四郎が身祿を偲び、かつ植木職としての技術も生かして「富士山」造成を思いつきます。これが富士塚の起源です。この高田富士は、もとは早稲田キャンパスの大隈重信像近くにあったのですが、校舎建設に伴い、近くの水稲荷神社に移設されています。富士塚の基本的な造りは、富士山頂の土を塚の頂上に埋め、そこに仙元菩薩を祀り、塚下には浅間神社を建てます。山体は富士溶岩塊を貼付けるなど富士山5合目以上の姿を写し、中腹に小御岳社と鳥帽子岩を設け、すそに胎内洞穴を設けるといふものです。

練馬区内には現在次の5つの富士塚が残され、往時の様子を偲ばせてくれます。

- 江古田富士            小竹町1-5-9
- 下練馬富士           北町2-4-1-2
- 中里富士             大泉町1-1-9
- 氷川神社富士塚     北町8-2-2-1
- 丸山講富士塚        春日町3-1-9-1-9

江古田富士を除き、他はいつでも自由に富士山登山を体験することができます。特にお勧めなのが下練馬富士と中里富士。きっと当時の人々のエネルギーの凄まじさを知ることとなるはず。是非一度富士山にお登り下さい。